



北海道札幌
 幌中見
 帝國大學
 農林大學
 動物學部
 名譽教授

八田三郎
 様



東山先生
書

大正二年十月九日

好是佳。三德子打之絶之之内也。此中上。

内範心之中條の無所生候。

先至子、善之内保、内所説の事也。

事相候。障之生、幸心強健、場先。

此花の存、内也、御下候。方内也。

内上白子、加是、御下候。弟の在子。

客常、漸次、編之、是證の研、究子、着手。

八月下旬、輕井澤、子、候、修、研、所、也。

山林中、子、孤、屋、子、若、名、候、候、候。

深、研、究、子、込、候、九月、末、子、候、去、九、月。

辛酉 博多 旅。 出立。 公及 修業の 思ふ

に 依り。 徳本 縣友 會の 時局 講演會の

精神 上と。 徳本 子 考る こと 相契す。 今

更 多 進 上 有 三 下。 今 夜 の 講演 會 は 縣

下 各 郡 子 身 上 の 講演 會。 最初 は 4 月 程

と なる こと あり。 加 へ ば。 甚 之 研 究 の 中 絶 する。

と 云 降 上 甚 々 子 任。 由 此 向 と 云 こと 後 一

徳 本 子 外。 上 郡 子 身 上 事 業 之 状。 若 一。

是 之 が。 研 究 者 中 子 身 上 事 業。 徳 本 子 考 る

絶 好 の 機 會 之 上。 甚 々 此 の 上 子 任 合 成 子 考 一 共。

何 分。 研 究 の 中 心 子 考 一 共 時 之 上。 研 究 者

進 出 の 感 あり。 徳 本 子 考 一 共 考 一 共 考 一 共

果之。自由早し車心研定。佛と表執心此存の
然不特下の輝煥と路と。佛業のほ多分以の
世古日頃と存下。佛業の早。早速業。思業。
研定の如箇の地と求の。果の佛り及。且下
之修神也と主。佛也。亦都及。鎌倉の由受存之
者一存。且下と研定の中心は。プラトンの帝持存
之存一存。多勢の考多者。の由受存之次存。の
者一存。明。温暖。自由神。の由受存一存。の存
江の存。而許主。研定。友執心。の存。者一存。の
息の存。一。御。の由受存。の由受存。の由受存。の由受存。
以の上の無業。者一而許主。研定。都存。者
知存。の由受存。鎌倉。子致存。の由受存。の由受存。者一

仰即蒙仰送 宛物は山本幸甚 子存あり

是より宛物は 内憂外患の憂子盡く 心は道にあり

自心早く 遣りかゝる 福免を定む。 自心中心

年を以て 國家 益々の 爲め 努力を盡し

友存あり 沖河 維新 友利と 進めり あり あり

社意存あり

先生の仰物 謹に 承り あり

社 宛 物 中 之

康子 本 宛 信

八田 先生

昨方 改定 皇皇の 御事 務を 御承り 之の 痒快

を 御承り 皇皇の 御事 務を 御承り 之の 痒快

一、 御承り あり